

2021年10月20日

「2021年7～9月期業況アンケート調査」結果 (2021年10月調査)

製造業と非製造業の景況感格差、さらに広がる

照会先 一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、中村、佐藤）
電話 026-224-0501



製造業と非製造業の景況感格差、さらに広がる

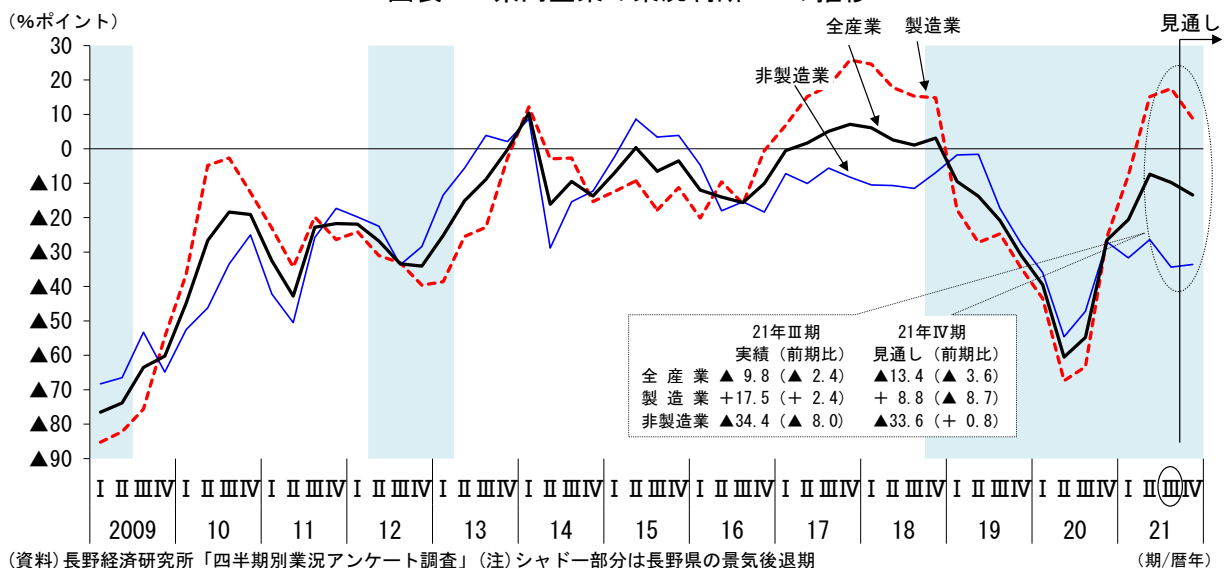
○ 全産業の景況感は5期ぶりに悪化

- 2021年7~9月期の県内企業の業況判断DI（業況が「良い」と答えた企業割合－「悪い」と答えた企業割合、%ポイント）は、全産業が△9.8と前期の△7.4から2.4ポイント低下し、5期ぶりに悪化した（図表1）。
- 業種別では、製造業が+17.5と前期に比べ2.4ポイント上昇し、5期連続で改善した。一方非製造業は、△34.4と同8.0ポイント低下し、2期ぶりに悪化した。また、製造業、非製造業ともに、前回調査の見通しを下回った。
- 21年10~12月期は、全産業が△13.4と今期に比べ3.6ポイント低下する見通し。製造業は+8.8と同8.7ポイント低下する一方、非製造業は△33.6と同0.8ポイント上昇する見通し。
- 21年7~9月期の売上高、経常利益は、製造業では大幅に前年水準を上回った。見通しは、製造業で売上高、経常利益ともに前年を上回る一方、非製造業はともに下回る見込み（図表2、3）。
- 雇用の過不足状況を示す雇用水準DI（「過剰」割合－「不足」割合）は、製造業、非製造業ともに不足感を強め、設備水準DI（同）も製造業の不足感がさらに強まった（図表4、5）。

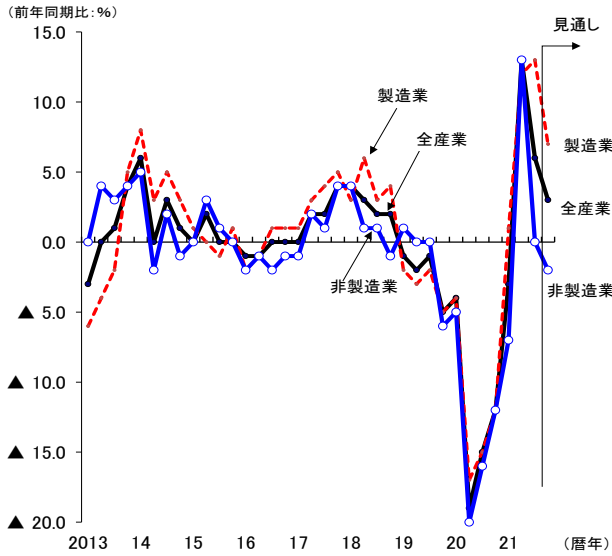
○ 今回調査のポイント

- 21年7~9月期の製造業は、自動車関連で半導体不足による生産への影響はあったものの、設備投資は底堅く、5GやPC、家電など幅広い分野でIT関連需要が拡大したことから、電子部品・デバイスや生産用機械などで景況感が改善した。一方非製造業は、災害復旧工事や三遠南信関連の工事量が高水準を維持した建設業の景況感が底堅く推移したが、首都圏などでの緊急事態宣言の発令により観光などサービス業の低迷が続いたことから、景況感は再び悪化した。その結果、製造業と非製造業の景況感格差はさらに広がった。
- 21年10~12月期の製造業は、IT関連投資などの需要は底堅く推移するものの、半導体不足に伴う自動車関連の減産の影響から、全体では悪化する見通し。一方非製造業は、緊急事態宣言の解除により景況感は改善するものの、改善幅は小幅なものにとどまる見通し。
- 今後は、製造業の回復の持続力に加え、非製造業は秋の行楽シーズンに向けて、緊急事態宣言解除後の観光関連需要がどの程度回復するのか、注視していく必要がある。

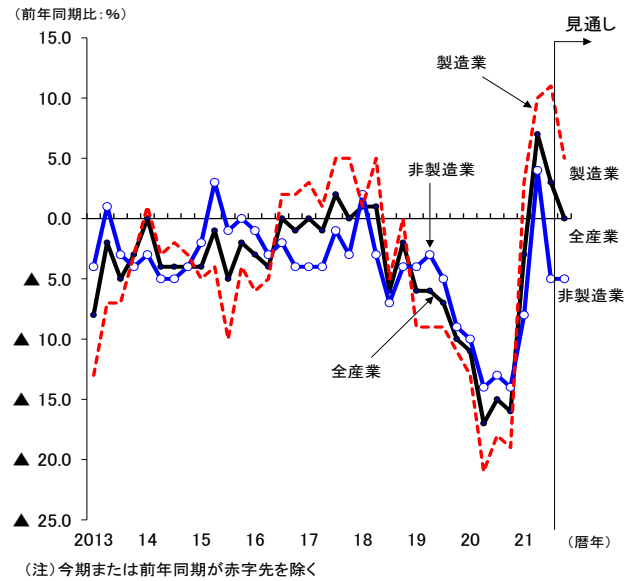
図表1 県内企業の業況判断DIの推移



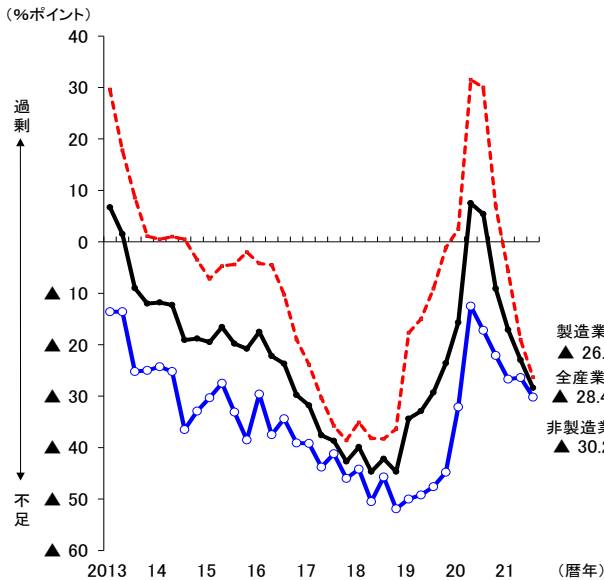
図表2 売上高の推移（前年同期比）



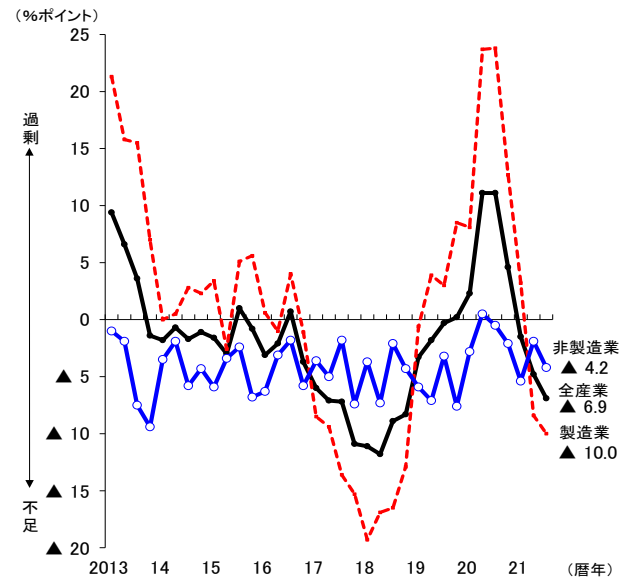
図表3 経常利益の推移（前年同期比）



図表4 雇用水準DIの推移



図表5 設備水準DIの推移



■調査概要

企業経営者を対象にした調査で、業況、売上高、経常利益、受注、生産、価格など、企業活動に関する現状と見通しを数字で表したものである。具体的には、個々の項目毎に、良い、好転（増加等）と回答した企業から、悪い、悪化（減少等）と回答した企業割合の差を算出するほか、当期の水準を前年同期比により比較、検討し、その動きから景気全体の趨勢を判断する。

調査対象期・実施時期・為替レート

対象期 2021年7～9月期、見通し21年10～12月期
 実施時期 21年9月中旬～21年10月上旬
 平均為替レート 21年7～9月：110.09円/\$（4～6月：109.46円/\$）

■対象 県内企業・事業所 646社、右表参照

業種別対象先数及び回答先数

		製造	卸・小売	建設	サービス	合計
合計	対象先数	275	148	78	145	646
	回答先数	171	73	47	69	360
回答率 (%)		62.2	49.3	60.3	47.6	55.7

回答企業の業種別構成比（単位：%）

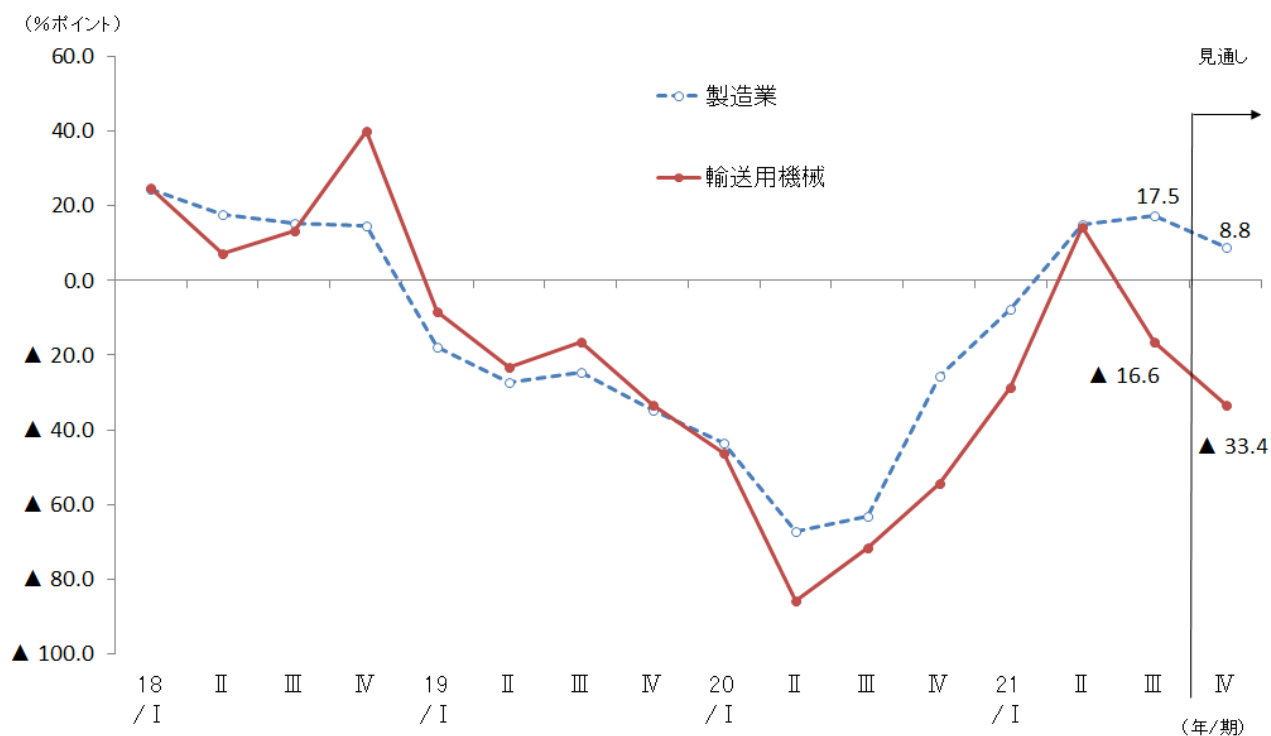


※ 四捨五入により構成比の合計は100%とならない

トピックス 半導体不足に伴う製造業への影響

- ・ 県内の21年7～9月期の製造業の景況感は、回復の勢いが鈍っており、先行きではやや低下する見通しとなっている。
- ・ こうした動きの背景の1つとして、半導体不足の影響が挙げられる。半導体は幅広い分野で利用されるが、既に、自動車の完成車メーカーは半導体不足による減産を表明しており、こうした動きが県内製造業の景況感にも表れている。
- ・ **図表6**は、製造業全体と輸送用機械の業況判断DIの推移を示したものである。21年4～6月期までは、輸送用機械も回復を続けてきたが、7～9月期は△16.6とマイナスに転じている。
- ・ 10～12月期についても、輸送用機械の景況感は、一段と悪化する見通しとなっている。
- ・ 半導体不足が、改善が続いてきた製造業全体の景況感にどの程度影響するのか、注視していく必要があるだろう。

図表6 製造業全体と輸送用機械の業況判断DIの推移



<各DIの推移>

□ 業況判断DI

(回答社数構成比「良い」-「悪い」・%ポイント)

業種	2020年 7~9月	10~12月	2021年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
全産業	▲54.8	▲26.5	▲20.6	▲7.4	▲9.8 (▲9.2)	▲13.4
製造業	▲63.3	▲25.6	▲7.7	15.1	17.5 (20.1)	8.8
非製造業	▲47.2	▲27.1	▲31.7	▲26.4	▲34.4 (▲34.0)	▲33.6

※括弧内は前回見直し

□ 雇用水準判断DI

(回答社数構成比「過剰」-「不足」・%ポイント)

業種	2020年 7~9月	10~12月	2021年 1~3月	4~6月	7~9月
全産業	5.4	▲9.1	▲17.1	▲23.0	▲28.4
製造業	30.0	7.0	▲5.7	▲19.0	▲26.3
非製造業	▲17.2	▲22.1	▲26.7	▲26.4	▲30.2

□ 設備水準判断DI

(回答社数構成比「過剰」-「不足」・%ポイント)

業種	2020年 7~9月	10~12月	2021年 1~3月	4~6月	7~9月
全産業	11.1	4.6	▲1.5	▲4.8	▲6.9
製造業	23.8	12.7	3.2	▲8.4	▲10.0
非製造業	▲0.5	▲2.1	▲5.4	▲1.9	▲4.2

□ 製造業の想定為替レート（平均）

	2021年度上期	2021年度下期
ドル円	108.58円 (110.00円)	107.69円 (110.00円)
ユーロ円	126.26円 (128.50円)	126.78円 (128.00円)

※下段の括弧内は中央値

以上